

孔通神
親三教色

唐末卷和作

特別
遠
1166



門 遠 1166

道子孔子一曰儒者

所為書何幾分給了
但之くくはさく

以又哲

此を歴苦念の剛志
但之傲有偏志の徳あり

ノ

平

書

唐来系私



情人

志水多入十



通神

三教色

前座

三聖邂逅

四季繁華白孔子名丘仇名通其先通人
 父者行不簡母者俠氏以其女郎二十二
 歲年明之歲十一月庚子生孔子於此昌
 平橋水道為兒嬉戲常唱河東桑青樓及
 長成意氣浪浪度度也ふとことけけ
 ハ嘘めして鬚長の骨長髪小齒あもあ



とぬ堅屋の石段合書あも境をわけて降
糸はくた文宣王もを幸せよ大通の乃
隆盛んありくぶかしくかれの久えん
て移ふりの人んはくく浮きをちめひ
後ふよ今の昔と遠ひあるゆりる滑粒多
る世の中に是れかゝるて仁義禮智信の
為青表紙のる吉を自業自得子あな
せんより貴宗の二寸く幕学んで時く

巧言令色のぬるをちくくんと先大目
幸華北東都昌平橋の出店小引紙
風流英傑を居て二階三階の家居を
えて邦君樹塞門といふやむ庭への冬
木を植込其物好利休宗且子指を呼さ
せ門よの東江流で大通亭と云つる額を
挂子路を人と反仕ひ六藝も何あやう
禮小の初賞裏之舎級日拘日此拵びの

不方樂ハ精して養兼河東帝とあれを
射ハ愛して揚弓と和した御ハ浮雲うら
にッ子よあれの書ハ細見滑徳平小眼とこ
ら一數ハまひらしてを化令のメ々りと
ふ一惣髮天宮と本田は格のせ着物とけ
長く才幅廣きを不厭襦半の衣紋首
小甚はけ帯力細ふして髮のどろく扇を
ちく限煙ハ官筋さぐり天生通旋予と云

懐の鼻初松鼻よりさく飲と然として
舌けらと好この之を通不孤必有隣其ころ
南膳部州豊秋津洲地神五代
天照皇太神宮も甚ハ蕩樂小偏しく徧
あらず備よろぬれ宗も礼まさせ終ひ思
屋根の長れ諫言も久しゆに定ふ不返志
めとえあけさせぬらずまひささせ終ひく
やくも先くも子當あく之下あり門不ハ六根

清淨と拂ひ出—さぶぐ城も遠くを警た
がなより八を後のとく留のどた儼げん倭小掉麻
の八り耳小笑あた云い決まこゆり終ひ—あや
宮みやよえきり難く是—らん奈良や春はる日や三
臨りんの神かみの目三日と夜を明—のひ—久八百方
の神達かみたち神傳かみつたひまほとひ言こと天あまう系けいよ集あつり
終はつひ出でお終はつのうくはひよ伊勢いせの大おほ神かみ御み後
箱はこを滑な履はきひのみけに丈え垣かき王みの所ところの教おし屋や子こ

とあり終ひ—うどもぬんかまうぞ神かみ海うみ
の一口も石いしあがると一寸先いちゆきへ關せき雲うみ子こ初はつけよ
驕おごれよ天あまちちああ唄うたへと毎まい晩ばんく孔子こうしとはれ立
控ま里り—のこひり終はつふえより孔子こうしもこの
あつたあれへ茶屋ちや屋や名なの付つ屋やきりよ禿かぶ
の仁に慈じまを表あらわ向むかへ神かみの名なでは懐なつかしう出
して世よ活いを仕つかぬるより今いまの昔むかしよあつと
人の旅たび舞まを仕つかぬるを神かみとやひあつん

此しもを此初時^{初時}交^交あ^あと此指^指由^由風^風よ^よと^とい
居^居し^しと^とお^おさ^さび^びし^した^たら^らう^うら^らあ^あれ^れの^の孔^孔子^子の^の炬^炬を
よ^よあ^あら^らり^りあ^あら^らう^う水^水調^調子^子よ^よ之^之味^味せん^{せん}あ^あら^らせ^せに^に戸
節^節お^おと^とめ^めく^くし^して^て居^居め^め之^之の^の太^太神^神の^の夕^夕ア^ア柔^柔の^のや
その^{その}徑^徑精^精り^りと^と白^白川^川夜^夜身^身子^子踏^踏の^の意^意を^をあ^あら^らう^う
は^はけ^けぞ^ぞう^うと^とあ^あら^らう^う應^應た^たま^まし^しの^の意^意を^をあ^あら^らう^う
よ^よ掃^掃除^除し^して^て仕^仕色^色の^の子^子路^路は^は是^是て^てき^きれ^れら^らよ^よあ^あら^らう^う
滅^滅よ^よ目^目こ^こ新^新が^が孔^孔子^子の^の意^意を^をあ^あら^らう^う候^候く^くこ^こ身^身子^子モウ

何^何時^時に^にい^いふ^ふち^ちき^きら^らせ^せく^く太^太神^神の^の今^今折^折角^角
能^能ひ^ひ交^交と^とん^んて^て居^居め^めの^の意^意を^をあ^あら^らう^う孔^孔子^子の^の予^予は^はき^きら^らい^い意^意
麻^麻ぎ^ぎの^のい^いど^どま^まぶ^ぶう^う宰^宰予^予か^かと^とを^をあ^あら^らう^うも
け^けと^とら^らへ^へせ^せら^らい^いか^か太^太モウ^ウい^いう^うと^と居^居め^め目^目是^是持^持
て^ても^もつ^つあ^あら^らう^うと^とら^らい^い子^子モウ^ウ太^太神^神さん^{さん}お^おめ^めの^の
あ^あら^らう^うの^の紙^紙が^がは^はい^いて^て居^居中^中也^也太^太ホニ^ニナ^ナア^ア正^正意^意の^の
頭^頭よ^よ紙^紙中^中の^の意^意を^をあ^あら^らう^う孔^孔子^子の^の事^事と^と太^太神^神く^くと^とい^い
へ^へん^ん金^金が^があ^あら^らう^うと^とい^いせ^せ太^太神^神く^くと^とい^いら^らう^う

トてらんぬ居依の才上でへちこさるる
へか^子 せんあう神さんとちやせうう^孔
どうり女房のしよご^トソリヤアそふと
夕三米を一俵くつひて来中^孔今粒焚^子
めがそつ大が悪く^子を飯不厭精^子今月
へとんど入中^子是でへ陳以来の通人^子誅^子
也^子困^子コレ子路^子居依のあともも^子か
ぞ米の吐^子へちと耳^子ぐの^子それよはけても

私もこ^子て居てもはま^子秘^子りんと^子富^子
貴有^子天^子せんふ事^子ふとん^子ち^子とさ^子ら^子ち^子か
予^子も^子蘧伯玉^子や^子の^子子^子路^子り^子小^子男^子の^子所^子の^子掛^子人^子
ふ^子を^子あ^子つ^子て^子方^子を^子造^子教^子した^子れ^子ども^子持^子る^子神^子あれ
を^子助^子け^子神^子ご^子よ^子ま^子う^子司^子馬^子桓^子雅^子が^子殺^子そ^子ふ^子と^子あ^子
と^子作^子め^子よ^子あ^子つ^子て^子自^子身^子番^子を^子腰^子繩^子で^子結^子す^子幸^子
か^子あ^子つ^子て^子方^子け^子困^子ソリヤア^子ご^子ふ^子して^子孔^子陽^子虎^子よ^子面^子
似^子て^子あ^子ら^子そ^子ふ^子で^子人^子ち^子が^子ひ^子さ^子を^子ふ^子へ^子あ^子れ^子も^子大^子

新流しんりゅう子こ公治長こうぢやうぢやうさんも折おつてふんせうや
 せんら孔あれも人ちがひさ太それでも今で
 世帯せたいでもおつて傾城かやせいでも筑つくてゐるはおお
 の異田まきりか重じゆうよ孔まじやうだうかんとらねつ
 金かねちぎひこねく子ホニニ魚困くわんやうち質しちの
 あづれの書しよ舟ふねが来き申まうた瓶びんの表おもての不ふ意い意い床とこ
 柳やなぎで利り上げとせせずと流ながしああかか孔孔ムあ
 了りやアたしり去さ年ねんの八月はつげつ席せき菜さいの時ときははこの

ぐえ利り合あせそそえああどどろろふふアア二に高たかの質しち時とき哉や
 時とき哉や太ころちも代しろとああづりの天あまの逆さか戈やを
 ころころすすてて金かねカカととてて三さん種しゆの神かみ室むろも二にととハ
 沉しづめて今いまででああるるのの六むととててああるる十じゆ束とのの水みづ
 太たカかををろろううとと孔ソソリリヤヤアア何なにんん母ははははとと太皆みな
 か大だい目め本ほんをを吉きち原げん一いつ符ふつつててふふびび中ちゆうののあ
 ここままだだととかか孔富とみ潤じゆん屋やらら我われ差さ小せうだだもも見み
 徳とくををええんんどど自みづか身み子こももちちつつとと実みててええんんととののせせえ

太 今を感應寺とて見せし大巽感應
 雞坤兌乾 孔 せんあう八百萬の神とて
 ねんでをそでも仕て世々へい 太 せんか
 事にでもあて新世とてとてとて
 八幡一はにれんできり中一に 孔 時小モウ
 食ごころふ何ごうはひりのいあふ 今
 飲のあまうれ羊の冷汁小豚の味噌はけ
 さ鶏の貝焼でもとくやくせしう 太 鶏の

おれはとらぬ 孔 信らせくあんであんでが
 あろふ トいおろく 叔かおま時侯のいんじとあめんり
 せうに 徳をふとりのをある孔子もてとて
 孔 朋遠方より来る事ありまて 樂一から
 ぞや 和尙あんとて 供をぶく一 徳
 叔 せんあうとてふしやせう ト何中うオ子よ
 太 これの賓人よあふ不でも同よかろう
 叔 ホニ 阿くしんわん坊をまてひらう
 のづうさふくああつ 太 ちやんあふ

階小及その席子及ぶりかどくごりては
中野亭がゆかどとらてせよはとあ
たし然し三友を安との利合がちとなり
まが糸 孔コレ野夫をいへるあゆふ何でも
貸そおる借る可也 釈 互借の法方の赤
梅檀を皆麻釈かとしてと 孔 ととの
はすりのそんふ事さ先きで猿牙よ案
て堀小浮ん然よあさる者いそれ通り 釈

ありがごとく 因 ころちがこりつる日本と
いふに癖があると思へそ和尚も説法のあり
くさひりに癖ある 子 そんふひいをのそり
ふさるあし今が駕を三挺え付せう
孔 君賞よ仍時ハ等をたてて 太 ねよ藉くの不
不ぬをえうろしゆんか 太 ねよ藉くの不
通をいふともゆは法く 太 のふり 太 をあ
す 釈 口小熱白の三妙の法をけてんり



あさかろ **釈** 一簞食 一瓢飲 かくらざるに
斗し男どが今でも負走りの **孔** 脛を曲て
枕とよるを樂とて内斗居中よ中不
か中りさ **因** おやくこの方でも目蓮とよ
人へあつふ人の **釈** ありゆべうらうに釈
小孝はあ中りさ一生さうらくははくあせ
ぬ **十** 公のわくし多路は利と **子** サア く酒を以て
あさ **齋** の破ごことあふくあつて破もあ

て来とせで **二** 微生高り不でかりるよハ及バ
ぬ **孔** コレ料理あり切目ふーからざれを
不喰とせ又例のぢいむを志やくせ **是** 是以君
子の庖厨を遠ざけ **子** 久しめんとすこ
せいさく斗笑あせぬ如来さん **釈** いや子路
わうさうらくのうせおれが切らふ **子** 十二サ
は **一** ぐあふ子 **精** を料理とやア **釈**
あま **子** におふららの檀特山の阿羅茶系 **依**

物モノをトもシて孔孟子ミ子コよシんゼらルと祖禡セ裸キ程チとテ
てウんセ太タ折ヲとリをモウウ入ヲよク中ノたテ
皆皆ホニモウあソくアりテ太太西シ乃ノぶウらウれガ
けハ観ク音オンをコそノ出ヲとム太太あリりハらウ
ひトうトをモアガらウらウいハいハ入ル太太そノ
をコよク合ハ満マンとウりテ彼カ珠ジュをウまシてハ子コ
のアる男どノめヲ太太念ネめテあハる身と自
かラる名をシはヒとシ太太場バ不フらウぶカらズ

ふラぐク太太アレモト上上松松屋屋田田村村屋屋一一余余程程もウこコ
よ孔松松屋屋のカきキたタが不でモそウくク花花をウ
ちウしタとウ太太何何とウ女女のトあハりリ
をモて居る人とウ太太それレもウ身身子子のウちチ
を凡夫凡ら女とウ太太居居る程太太冷冷を出とキ
あハりテ女女り男りウらウらウれノ太太亦亦生生
男男子子とウアアあハり太孔孔時時子子合合ぐと不不いい
は火浣浣布布の羽織織を持て行て八九九支支借借

て来さるせく子路がう 子 それでいあれた
はまらやとせくせ 孔 朝は晒落を尽して
夕子ふ死すとも是可あり 子 それいふ
どられども 孔 ハテは聖宅を家修すよ入ると
令へ満と出束のい 子 それも南極
も志はし無遠慮とたいとふま之あはら
と 子 やアぬら 孔 予りも南極に不ハ大厭く
子 羽織を挈て修をよまるとたいハ困窮如

たりとぞいぬら 子 小云と 因 ともく入る
くだの 孔 け人ふしては病あるる 因 ち
是ハ後が空あつて行 子 神樂
祿宜著爰でも食ふ 因 せんふ下果を云
ま 子 と行がけよ正直 因 正直ハ二杯
の盛 子 是 子 ともは 子 神の
隣 子 今夜の世 孔 青
棲 子 何屋 因 何れハ

これへ大出来くせんあらしめりる
とれむせサアくせんあらしめりる
者もモウトウ因トウ因トウ因トウ因
不舎益夜因トウ因トウ因トウ因
お目小かりやせり

後座

青樓雜談

旧事記嘘八百卷萬八牧目曰天津浮橋
之邊有數多娼家通之客神銀漢衆扁舟
云中のみ天野屋の伊特冊とふんえつる全成皿
のちりん小伊特送る翫巻のとりりらして
浮橋での一寸の男より後こ保くあしせ
後ひ大鼓未社の神と川連雲の居後
船戻り若紙をとりて来る夜もく揚

ばあもさくのほまゝに事あるはとて多く
のふとをよそへて身うけしとれたる清の別
荘に因ひて是より朝暮はしくこれの
由父國常きそのめなりや我の是一生獨
りありとれはけくさるるまじい男女交
合の乃と始め内への根うゝ混く沌くして
うらんありは仕方く甚也を扱はしく
て二柱の由神とほひは遠く國は流しのみ

女神男神も今の身よけくく、思ひたりふ
やうじう一の身あれほどのふお仕やうめや
もあつたなりは身ふあつて一門一室といは
とばせもあつかぬの書居死をええ天降り乳
と立く妻女をせんりのとそれうりあめ
えめよれ女神とあつかひてはひは娼家と
あし給ふされハ神の左邊を控ひし一不不
まばとて今の身ふあつて神邊と名付

よし是和國は流れの君の娘あり其のら
人のまふらして江に室の津其外西のめ
ふくわけくかざる小いとぬあらず又舟に
不成えあり一は後念河原に舟をけしめて
娼家あり一と 吉原六全 中少由豊宮屋新
花とまゝる者あまの花女を抱へ立て 懸
昌せりとあり其後郭今の大門口より又
今の新吉原小川より長浜ひとくありあよ

あそ松の位の散うせぬ全盛中く予る
がふれ等力なるがべーともるすかくて三
人の聖蓮へ途中より三牧あそ花を売せ
大門よりけかこちんかと拂ひ衣被はく
ひ大門より入と兒へ勸弓如よりかどく 傳
ふろの仲の町たろよの長湯屋がえん世に孔
子先きまてあふく後へ史婦五出さるる
娼巻ふどとり さくら 硯蓋とめてふ 哉

前屋へ表者（表）とせしめて仕也とほけ
さや有べんかうの咄（咄）かどありてそ
こくよ仕也表者ふ拈灯（拈）射（射）をせ誠者
屋一あり二階（二階）より上り皆く唐土が唐土の
とらる（孔）孔（孔）息子（息子）定（定）きこりせ（因）因（因）定
がよふ所あり申す（釈）釈（釈）神儒佛とよかり
わーが上（上）をでり（因）因（因）これにて（因）因（因）儒（儒）仏（仏）
神（神）ふあり申す（因）因（因）今日（今日）におあ（今日）あ（今日）い（今日）い（今日）一

えでひたつます（釈）釈（釈）これへさこふよ（二）二
いおき一代（孔）孔（孔）時（時）子（子）定（定）は和（和）困（困）る（困）る（困）る（困）
の（因）因（因）い（因）い（因）ゆ（因）ゆ（因）こ（因）こ（因）ぬ（因）ぬ（因）く（因）く（因）ち（因）ち（因）度（因）度（因）り（因）り（因）ま（因）ま（因）す（因）す（因）4（因）4（因）の（因）の（因）
ら凡（凡）雅（雅）ありし源（源）氏（氏）胡（胡）月（月）小（小）万（万）葉（葉）集（集）ら（集）ら（集）
らの（和）和（和）舟（舟）八（八）重（重）垣（垣）り（垣）り（垣）孔（孔）孔（孔）投（投）入（入）へ（入）あ（入）ら（入）仙（仙）々（仙）香（仙）
と會（會）入（會）て（會）白（白）れ（白）と（白）罷（白）ふ（白）と（白）城（城）を（城）修（城）ん（城）と（城）
欲（欲）す（欲）と（欲）方（方）能（能）ふ（能）出（能）拈（能）が（能）一（能）は（能）と（能）ト（能）者（能）く（能）た（能）
た（能）と（能）が（能）ん（能）と（能）あ（能）く（能）く（能）因（因）因（因）隣（隣）へ（隣）何（隣）ん（隣）と（隣）と（隣）お（隣）い（隣）ん（隣）
け（隣）ん（隣）か（隣）と（隣）出（隣）し（隣）て（隣）終（隣）

と 異浦いこうさんてあざり中と 阿あのちのぼる
よふと 釈しやくこいんを客人きやくじんと 限げん居いえんで
さう中と 大だいハテナ 酒いさけの百菜ひゃくさいの長たう
盃さきを揺ゆをせとくりお子こ始はじめさせ 大だい私しの
肉にくて吞のんこのがまゝ 醒さぬ 大だいを 七しち人にんふふ
碎くだぬ 大だい其そのらうの初はつ日にちふ飛と子の酒いさけと吞のん
と 伴ばんふ 大だいくらとととともせんかしく和わ
尚しやう酒いさけへみ戒かいの甚しんつたうとと執しやく着ちやく

心こころが舞まる 大だいどれ政せいととふり 虎こらうらうと
つと 釈しやくット 有あくしと二につ請うふふへ律りつよ
西さい方ほうでいあくて心こころ方ほう極ごく樂らく津しんととサアと
ととととと 大だいいつ吞のん
釈しやくおとらけがふ 大だい和尚じやうの敵てき野や郎らうの盃さき
大だいそれいふんゆべ 大だいハテ 蒲よ萄う美酒びいしう夜や光こう
大だい杯さかづきと 大だい欲ほ吞の皆みな無な上うへよとがす 大だい怨うらみまを
大だいかゝあふと上うへはと 大だい再またせむ是こゝろ可かく

ねえよ送 ちんあうおあひ送 けららやア
 やあしんよあうしきえそのめを釈 致しまし
 おれづら送 安一出一めん一アおがらんを
釈 息子とおれおがすまるんかぶ送 者
 と申ふ蓮根混沌とて鶏卵の如送 と
 あふ送 こやうあうお押をささます送
 純子をくてもいせ送 これハ迷惑送
 ありく送 慢沽酒莫愁送 その燈明の

ちんを送 正送 ナニ地明送 ちんあうおあひ送 けららやア
 を切らうせ送 ちんを切送 それで光明偏照送
 十方世界送 二人の面をく送 とあう送
送 息子が真悟送 面ハ大ぶ光る送 の送 池の毎天
 があはれぬ送 けららやアおがすまるんかぶ送 者
送 ちんあうおあひ送 けららやアおがらんを
 さうたう送 大ぶ送 けららやアおがらんを

けいこうん 医 おあゝ根うら右よりほせんりつと
を非に
 あげませう 因 けいごかみう 送 さやうあしと
 たぐいひりてきくほせう トきて 和 早苗
 や 禿 アイ 和 ちうとまや ト何しとせやう
てまたをさかどいふ
稗 今夜いとうごまゝ火宅の中であ
 こゝらね 因 火鉢の火が内外わきよあ
 了 孔 是とあをげばいよくれたる 塵 後
 野や炭をよと出してはぎや 禿 アイ 因 ろめ

不皿をちのん 禿 梅次ごふ
 其硯蓋をのけてせせ 因 おいんらと
 さげほせ 唐 押 因 マア
 ひく トの内物さかこと 孔 斗箒之妓何
をいふ 足算也がうてれ子娘 孔 くらわ
 のくさん一す吸はけてらん 禿 アイ 孔
 アレ 孔 あんどうがあつ 孔 いあぬ 孔 きん 孔 いた 稗
 コ 孔 あの子 孔 室 孔 一 孔 寸 孔 末 孔 や 孔 め 孔 の 孔 さ 孔 中 孔 子

是ハ雅俗（五）ヲヤをららしハホシ（五）これ佳
際子（佳）あんご（五）とちを持とう（佳）これ
トひらき（太）おらげでやけたとき（五）
アシ（五）ちとおまふあげ
ませう（親）不血うふさうた（五）是ハこは
つし物（孔）とんあう（孝）あふ舎と
まろがひまう（方）ふいふいてん
だ（五）るほ流（流）でいさり（二）は（二）

あり（五）里（子）方（方）是ハたまうぬ（太）和尚（六）芳
町（五）ふらうらん（人）がおそれおそき
ひよ（佳）トレ（一）ころら（の）あせ入（り）く（一）グ（一）
らん系（イ）マセウ（又）佳（佳）陸（一）こひつ（一）閉（口）物（一）
笑（子）で（天）上（天）下（下）唯（我）獨（尊）尊（一）鄭（聲）の
雅（楽）を（乱）始（る）う（は）内（ま）く（ま）る（あ）り（二）て（一）啓（ス）
ヤニヤク（邪）つそ（お）り（ろ）ふ（た）く（一）た（孔）洋（洋）洋（洋）
平（盈）耳（裁）也（也）ら（と）そ（こ）を（か）は（け）ま（せ）う

亭 おせんぐ出ほしと 太 苑んご 血鉢が並んご
 山田の大地の坪のよまご せんぐ出ると女席立
 まる 袂也えん 羽 ねー しまのりるひるを
 ろーをたてる
 ちあんそかろことさんえんいん 秋 これさ
 おろぐ方のけとめご 乙 それごろても 丙
 ころちへほふあまふウ 佳 隣 だんとお
 あんあん 佳 ねちそろだぬ 孔 地をの
 玉酒聖人の飯乾天の酢あ 萬客るむ
 世一

者よらと破い物をあづく 乙 せはよこさ
 更ませ 亭 おまうらぬいあされま 太
 かききこーやーらモウつけね 秋 おれが
 飯い不増不減ご八味飲食でも喰へ寝
 亭 其るるさぬはるはうたお茶よでも
 ねつけかされゆ 秋 せんふ事みーて
 空に寂くとかりこみふトむせる 孔 食不語
 乙 惟 ああしモウね仕おでぬさるうら

きんトト^五 因^六 淋^七ん^八ざる^九の^十登^{十一}て^{十二}天^{十三}を^{十四}え^{十五}る^{十六} 又
くのり^一ゆ^二たり^三 因^四 天^五は^六八^七を^八雲^九が^十か^{十一}ら^{十二}う^{十三}
因^一ホ^二ニ^三 紫^四雲^五が^六た^七ふ^八り^九の^十 因^{十一} 紫^{十二}の^{十三}月^{十四}を^{十五}
霧^一ふ^二を^三思^四む 因^五 泉^六治^七さん^八お^九め^十ふ^{十一}る^{十二}ま^{十三}ね^{十四}や
の^一ん^二世^三よ^四ふ^五ま^六う^七の^八 因^九 お^十ち^{十一}る^{十二}さん^{十三}ま^{十四}せ
う^一あ^二う^三せ^四う^五な^六う^七後^八者^九せ^十う^{十一}あ^{十二}う^{十三}と^{十四}い^{十五}ふ
の^一よ^二あ^三う^四つ^五て^六め^七い^八は^九う^十 因^{十一} ア^{十二}リ^{十三}ヤ^{十四}ア^{十五}り^{十六}そ^{十七}に
め^一ろ^二う^三い^四ひ^五 因^六 せ^七う^八あ^九う^十く^{十一}く^{十二} 因^{十三} 園^{十四}い^{十五}あ

そ^一う^二せ^三ん^四 因^五 ころ^六ち^七や^八そ^九ん^十あ^{十一}ゆ^{十二}の^{十三}あ^{十四}う^{十五}や^{十六}せ^{十七}ん
それ^一でも^二せ^三う^四あ^五う^六く^七と^八い^九ふ^十や^{十一}ア^{十二}ぬ
へ^一 因^二 この^三子^四も^五モ^六ウ^七 怒^八が^九う^十が^{十一}あ^{十二}う^{十三}う^{十四}
先^一判^二せ^三う^四ら^五た^六う^七 因^八 両^九人^十 け^{十一}ろ^{十二}ち^{十三}や^{十四}ア^{十五}や^{十六} 因^{十七}
それ^一其^二の^三怒^四が^五 因^六 怒^七と^八い^九を^十李^{十一}延^{十二}年^{十三}が^{十四}頃^{十五}
を^一始^二め^三て^四や^五ア^六ぬ^七り^八 因^九 せ^十う^{十一}せ^{十二}ふ^{十三}の^{十四}あれ^{十五}も
李^一伯^二が^三詩^四の^五名^六花^七傾^八國^九 因^十 両^{十一}相^{十二}歡^{十三}時^{十四}分^{十五}は^{十六}流^{十七}
ゆ^一い^二の^三で^四 因^五 あ^六あ^七の^八方^九に^十李^{十一}伯^{十二}ら^{十三}の^{十四}は^{十五}は^{十六}は^{十七}

ておれうはまろ 孔 まんがんふ中すい 因 扇
 屋一筋と笑ひのりけ 五 左中うでぬざりま
 寸滝門さん之余秘出おされはしふりけ
 比へ宗匠ありと申う花舎と申うと朱
 されるそよでぬざり中ま 孔 ぬれう中も
 撈物とよとした秘由実ふあると かところ
 一 釈 あんごころや 滝よごちうの毛纏の
 上よ吸筒 因 まらひ滝好 釈 それより

け吸筒のめんのもた 孔 一や 酒をえると
 男の命ご上長安市上の酒家で一斗吞
 て碎ひ情れてはひもろてもゆくぬをれ
 かく内がぎたふつてこえな事を始め
 杜子美なりよく 方 酒を後をかき
 りは 釈 け撈物の陶淵明が筆のさるお
 よん 方 ころそまぬ 因 おま
 さん 因 ころ 因 ころ 因 ころ 因 ころ

りうちふんあん一〔天〕 又ちふんあん
一〔孔〕 とき 大勢〔世〕 までどふもあくらぬぞ〔太〕
あまがふあのみまご二牧〔ま〕 あつらけ〔天〕 せん
あくら二牧二あま一してあまらるがくあれが
早〔早〕 ことをうらうそれを終〔終〕 くころの
小〔小〕 せりり〔天〕 せん〔天〕 口〔口〕 にく〔口〕 観音〔観音〕
經〔經〕 小あふサア妙法蓮華經觀世音菩薩
普門品第五〔孔〕 サア アんやりてとこ

〔天〕 どもとふいひれやせん〔天〕 せんあう輝
うふるふふ〔天〕 せん〔天〕 それがふこせんとく
〔天〕 引導ふふ〔佳〕 是のあんとゆるあつ
〔天〕 サア せん〔天〕 それにうくあらんこれハ
〔天〕 それちうく小段えれいとふもあか
くらていれやせん〔天〕 十二 さあめんこれぞ
ねんサア〔天〕 せん〔天〕 せん〔天〕 せん〔天〕 せん〔天〕
て二ふ大せいふうのうそそれうく

いふ處いふを祈いのちとまろかしく人も減くて
思おもつて無な跡あとかと和 だまされあんと肉かで
太た せんあゝおれおしくささうの長ながい肉
小このうろやせやや和 ソリヤアそよとぬーの
名なへあんとりまへらんお息いき子こさんどの
祈いのちさんだのと斗たたかえりあかろうし
やせん太た ころちろ名なりりちろが名なの祈いのち
幣はにと云い中ちゆうは和 めき情じやうさんとくちかく

あつふ名なでありいませぬ太た とうらあひてい
ろそふで大おほきこむ和 ころころそあひて
いころかたあつらわける和 ちや紙かみがとろと
飛とびいしたたきせんとでるわア歌うたをよこ
あんま和太た 焼やんでえぬけしーらら其その色いろ
こ和 ナニタムごま儀ぎのろふかあひあ祈いのち
らまとも祈いのちやぬりましましんなゆ
きーてさしころあんまゆわーめんのそ

まろやうにあいせうかしくどあどまきあん
—^太せんあう神あろしう湯祈^{せう}誓とそ
ろうい^和とよでもあひせうかしくこんど
一人で来あんしあん少^太まきやア来
よふがせんとい今月^{えんげう}様一初うぬけりヤ
あうぬ^和うせとつたあんさふ^太な
のるだ今とせんといづうけいので^和
あせ^太出雲の方^{かた}縁^{えん}ごんのせ作ふ

世九

初く^和かんふ久^和お前彩^{いろは}遠^{とほ}原^{はら} ^和あひ
らんちると^{すうと}碓^{すい}笥^{せき}をか^かあ^あ—^和其^{その}終^{はら}へ^へち^ち親^{おや}
^和あう^{あう}こ^こ—^和よ^よく^く寐^ねあ^あん^んた^たね^ね ^和行^い生^{せい}安^{あん}
樂^{らく}よ^よく^く寐^ね入^いて^て居^いる^るの^のを^をち^ちあ^あんと^とあ^あじ
た^三 ^三あん^{あん}ま^まり^りほ^ほを^をお^おあ^あん^んま^まり^りと^とそ^それ
で^和そ^そう^うど^どや^やぬ^ぬく^く枕^{まくら}え^えで^で一^{いち}切^き徑^{けい}を^をか^かく
あ^あく^くま^まろ^ろを^をと^とろ^ろて^て何^{なに}り^りみ^み斗^たあ^あひ^ひて
居^いる^るか^か—^三 ^三あ^あふ^ふさ^さあ^あげ^げの^のく^くさ^さん^んと^とら^らふ^ふ女^{にょ}

師流の密仁が後をえて来あせんく
それでみを出し心志釈生者必其ハ
浮世のありさ留まけくれハ又遠さ
くる事もあるのさ三モちろとちろちよん
あへ釈とんどはめて入具三ぞ金佛を
抱ひて帰三ぬアワろそかろ
て居あえまね釈飲酒戒三を中るかう三
ワろちヤアとんぞ中せそい三まよ釈中せ

た〜女があれハもた三あつ三い三ふ三
悉達太子とハあれが物三名三と三ま三死三ふ三こ
とをい〜あえまそりヤアとよとぬ一の
方ハとちと三天竺三を三か三う三い
てんぢくと云三雲三の上三久三と三う三い三ワ
つちヤア雲の上三登三つて三ん三と三ふ三あ三ま三を
上三天三人三よ三あ三ら三う三が三り三と三ま三よ三一三た三ら
若三界三であ三く三て三よ三ふ三ら三う三せ三ら三ぬ三上三界

の天人も退没の雲よかみしむ五衰と
てあれふも苦があるめさ 三 ヲッぬーの
あつるのま世にやろがあつたまよ 釈
ろつといふまへ夜るあくゆで 三 ぶく茶
斗りゑあんと 釈 生れし時茶をを湯
かけたろつとそれでさ 三 どふアをぬーめさ
ハアスまでおきてあつたのかつけをかをろ
それろうだんとあつたま病家たと

あつたま 釈 法持の坊のろふ 三 ぬーア
お寺のぬーぬ 釈 十二 医者さ 三 かんふんを
か和南さんでおくさア 釈 和為り女所安ゆ
とんぶ事ごと終一色即是空煩惱衆生
則菩提心 三 茶をろつろつが西坊さん
がお出あんなよ 釈 寺いりやだろふめ 三 十二
ろちやア坊さんかよつたて 釈 ちまを
がれ外面如菩薩内心如夜叉 三 いまのおま

がしつこれでもかきまて 三 ちびさくらぎし
おあんあん 一 釈 びざ方便しうて是も功德
ぶとあをテモりきまびざ嫉鬼の如くのみこ
たろしうが是で成仏し中て 形 せんあうか
体あん 一 三 アイ 釈 諸行無常といひてくハ
ハつちちと涅槃小まよふ 十一人あがらるる
十五億土の乃ハかうて凡小遠ひぞこぞ
そふて 釈 だれぞ 太 善哉 我 我ハこれ 釈

とさうりもいらつせん 三 おそりあん 一 因 それ
よらり孔子さんがあふう逆轉とそらで小云
のまがまる 一 釈 それくんと事だ 因 青楼で
小云ぞらふのハあうくの清浄な本もさひ
てんぞあの人あも何人たれ 一 釈 形さアある
めくろ麻をさるが愛別難苦 一 因 邪見の
室ホハあしむむぞうがとあよんてもまわれま
トスあうしあうしうがたあはれ孔子三ツさくみ上
いでトトリおたむと春あうしあきよあくはいさつめらう

こゝ良とをむ **孔** 翠張紅圍小大平樂の巻
けてつれよめる **孔** 雖放蕩子未有うごふも要ぐあせう
たふ如 **此** 踏張を得るのも天の命ざるあり
る **孔** ぬくが面のさるるの大學ふるてこれと
も **空** 頭た予り如れ徒行の通子よへたて
きをあまのめりあんがら **糞** 土之墻の如く
卜行あつて **閩** 隅子退て尸の如くどぶさ
つて **危** 邦不入乱邦不居てんあ

唐 不小居よより **寧** 歸與 **孔** 何んであてをわたりいはいぞぬ **孔** 何を
はいをぬくあくないさほく事づついである
又くあくないさほく事我 **人** のこと **孔** か
あ **不** 善いあつら **善** せんと思ふはうぬら
胸中の **善** 不善ハ **踏** 張の勉よ
よる **孔** 己 **を** ざら **其** 邪 **を** 滅 **して** 善
くふさるせんかとおしくくれば **其** 功 **徳**

